

**Oracle® Server X5-2 Oracle Solaris オペ
レーティングシステムインストールガイド**

ORACLE®

Part No: E58153-01
2014 年 10 月

Part No: E58153-01

Copyright © 2014, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel、Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD、Opteron、AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

このドキュメントの使用法	7
製品ドキュメントライブラリ	7
Oracle サポートへのアクセス	7
ドキュメントのアクセシビリティ	7
フィードバック	7
Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストールについて	9
Oracle Solaris OS インストールタスクマップ	9
サポートされる Oracle Solaris オペレーティングシステム	10
コンソール表示オプションの選択	11
コンソール表示オプション	11
▼ ローカルコンソールを設定する	12
▼ リモートコンソールを設定する	13
ブートメディアオプションの選択	14
ブートメディアオプションの要件	14
▼ ローカルインストールのためにブートメディアを設定する	15
▼ リモートインストールのためにブートメディアを設定する	15
インストール先オプションの選択	18
インストール先のオプション	19
▼ ローカルストレージドライブ (HDD または SSD) をインストール先として設定する	19
▼ インストール先としてファイバチャネル Storage Area Network デバイスを設定する	19
Oracle Solaris OS インストールオプション	20
単一サーバーへのインストール方法	20
Oracle Solaris の補助付きインストール	21
Oracle Solaris の手動インストール	21
Oracle System Assistant の概要	22
「Get Updates」 および 「Install OS」 タスク	22
Oracle System Assistant の取得	23

Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストールの準備	25
ブート環境の準備	25
▼ UEFI の最適なデフォルト値を確認する	26
▼ ブートモードを設定する	28
RAID の構成	31
Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストール	33
始める前に	33
Oracle System Assistant を使用した、単一システムへの Oracle Solaris のインストール	34
▼ Oracle System Assistant を使用して Oracle Solaris をインストールする	34
単一システムへの Oracle Solaris 11.2 (SRU4 以降を適用) の手動インストール	38
▼ ローカルメディアまたはリモートメディアを使用して Oracle Solaris 11.2 (SRU4 以降を適用) を手動でインストールする	39
▼ PXE ネットワークブートを使用して Oracle Solaris 11.2 (SRU4 以降を適用) をインストールする	42
Oracle Solaris インストール後のタスク	46
索引	47

このドキュメントの使用方法

- **概要** – このインストールガイドでは、Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストール手順と、 を構成可能かつ使用可能な状態にするためのソフトウェアの初期構成に関する手順について説明します。
- **対象読者** – 技術者、システム管理者、認定サービスプロバイダ、およびユーザー。
- **必要な知識** – オペレーティングシステムをインストールした経験。

製品ドキュメントライブラリ

この製品の最新情報や既知の問題は、ドキュメントライブラリ (<http://www.oracle.com/goto/X5-2/docs>) に含まれています。

Oracle サポートへのアクセス

Oracle サポートサービスでは、My Oracle Support を通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info>) か、聴覚に障害のあるお客様は (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs>) を参照してください。

ドキュメントのアクセシビリティ

Oracle のアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc>) を参照してください。

フィードバック

このドキュメントに関するフィードバックを <http://www.oracle.com/goto/docfeedback> からお寄せください。

Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストールについて

このセクションでは、Oracle Server X5-2 に新しい Oracle Solaris オペレーティングシステム (OS) をインストールするプロセスの概要を示します。

説明	リンク
Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストール手順を確認します。	9 ページの「Oracle Solaris OS インストールタスクマップ」
サポートされている Oracle Solaris オペレーティングシステムを確認します。	10 ページの「サポートされる Oracle Solaris オペレーティングシステム」
コンソール表示オプションとそれらの設定方法を確認します。	11 ページの「コンソール表示オプションの選択」
ブートメディアオプションとそれらの設定方法を確認します。	14 ページの「ブートメディアオプションの選択」
インストール先オプションとそれらの設定方法を確認します。	18 ページの「インストール先オプションの選択」
オペレーティングシステムのインストールオプションを確認します。	20 ページの「Oracle Solaris OS インストールオプション」
Oracle System Assistant を確認します。	22 ページの「Oracle System Assistant の概要」

関連情報

- [33 ページの「Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストール」](#)

Oracle Solaris OS インストールタスクマップ

次の表に、新規インストールで Oracle Solaris オペレーティングシステムをインストールするための手順の概要の一覧と説明を示します。

手順	説明	リンク
1.	サーバーハードウェアを設置し、Oracle ILOM サービスプロセッサを構成します。	<ul style="list-style-type: none">■ 『Oracle Server X5-2 設置ガイド』の「サーバーのラックへの設置」■ 『Oracle Server X5-2 設置ガイド』の「サーバーの配線」

手順	説明	リンク
		<ul style="list-style-type: none"> ■ 『Oracle Server X5-2 設置ガイド』の「Oracle ILOM への接続」
2.	サーバーでサポートされている Oracle Solaris のバージョンを確認します。	10 ページの「サポートされる Oracle Solaris オペレーティングシステム」
3.	Oracle Solaris インストールメディアを入手します。	<p>インストールメディアは、次の場所でダウンロードまたは注文できます。</p> <p>http://www.oracle.com/technetwork/server-storage/solaris11/downloads/index.html</p>
4.	プロダクトノートを確認します。	http://www.oracle.com/goto/X5-2/docs にある『Oracle Server X5-2 プロダクトノート』
5.	インストールの実行に使用するコンソール、ブートメディア、インストール先を設定します。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 11 ページの「コンソール表示オプションの選択」 ■ 14 ページの「ブートメディアオプションの選択」 ■ 18 ページの「インストール先オプションの選択」
6.	BIOS を確認し、必要に応じて構成します。	25 ページの「ブート環境の準備」
6.	Oracle Solaris OS をインストールします。	33 ページの「Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストール」
7.	インストール後のタスクを適宜実行します。	46 ページの「Oracle Solaris インストール後のタスク」

Oracle Solaris OS 11.2 の追加ドキュメントは、次の URL で入手できます。

http://docs.oracle.com/cd/E36784_01/index.html

関連情報

- 25 ページの「Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストールの準備」

サポートされる Oracle Solaris オペレーティングシステム

Oracle Server X5-2 では、次の Oracle Solaris オペレーティングシステムソフトウェアがサポートされます。

Oracle Solaris OS	エディション
Oracle Solaris 11	リリース 11.2 (SRU4 以降が必須)

注記 - Oracle Solaris オペレーティングシステムの最新のすべての要件については、<http://www.oracle.com/goto/X5-2/docs> にある最新バージョンの『Oracle Server X5-2 プロダクトノート』を参照してください。

サーバーの注文時にサーバーへの Oracle Solaris オペレーティングシステム (OS) のプリインストールを要求した場合は、工場出荷時に Oracle Solaris 11.2 (SRU4 以降が必

須) がプリインストールされています。Oracle Solaris OS がサーバーにインストール済みだがそれを使用しない場合、ほかのサポートされている任意のオペレーティングシステムや仮想マシンソフトウェアをサーバーにインストールできます。サーバーでサポートされているオペレーティングシステムの最新の一覧については、<http://www.oracle.com/goto/X5-2/docs> にある最新バージョンの『Sun Server X5-2 プロダクトノート』を参照してください。

Oracle Solaris ハードウェア互換リスト (HCL) には、Oracle ハードウェアでサポートされている最新のオペレーティングシステムバージョンが示されています。Oracle Server X5-2 でサポートされている最新の Oracle Solaris バージョンを見つけるには、次のサイトにアクセスして、使用しているサーバーのモデル番号を使用して検索してください。

<http://www.oracle.com/webfolder/technetwork/hcl/index.html>

注記 - Oracle Solaris 11.2 (SRU4 以降適用済み) OS がプリインストールされていた場合、サーバーの UEFI/BIOS ブートモードが Legacy に設定された状態でインストールされています。UEFI/BIOS ブートモードを UEFI に設定してサーバーをブートすることを選択した場合、プリインストールされているイメージにはアクセスできません。そのため、UEFI/BIOS ブートモードを UEFI に設定して Oracle Solaris 11.2 OS を使用するには、Oracle Solaris 11.2 (SRU4 以降が必須) の新規インストールを実行する必要があります。

関連情報

- [33 ページの「Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストール」](#)

コンソール表示オプションの選択

このセクションでは、インストールを実行するためのコンソールへの接続オプションについて説明します。

- [11 ページの「コンソール表示オプション」](#)
- [12 ページの「ローカルコンソールを設定する」](#)
- [13 ページの「リモートコンソールを設定する」](#)

コンソール表示オプション

ローカルコンソールをサーバーのサービスプロセッサ (SP) に直接接続することにより、OS のインストールやサーバーの管理を実行できます。サーバーでは、2 種類のローカルコンソールをサポートしています。

- シリアル管理ポート (SER MGT) に接続された端末
端末を、ポートに直接接続することも、ポートに直接接続した端末エミュレータに接続することもできます。
- ビデオポート (VGA) と 4 つの外部 USB コネクタのいずれかに直接接続した VGA モニター、USB キーボード、および USB マウス

サーバー SP へのネットワーク接続を確立することにより、リモートコンソールから OS のインストールやサーバーの管理を行うこともできます。2 種類のリモートコンソールがあります。

- Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションを使用した Web ベースのクライアント接続
- ネットワーク管理ポート (NET MGT) への Secure Shell (SSH) クライアント接続

▼ ローカルコンソールを設定する

1. ローカルコンソールを接続するには、次のいずれかを実行します。
 - 直接または端末エミュレータを介して、シリアル管理ポート (SER MGT) に端末を接続します。

注記 - シリアル管理ポートのデフォルトの速度は 9600 ボーです。

- VGA モニター、キーボード、マウスをビデオポート (VGA) と USB ポートに接続します。
2. シリアル管理ポート (SER MGT) 接続の場合のみ、ホストシリアルポートへの接続を確立するには:
 - a. Oracle ILOM のユーザー名およびパスワードを入力します。
デフォルトの Oracle ILOM ユーザー名は root、デフォルトのパスワードは changeme です。

- b. Oracle ILOM プロンプトで、次のように入力します。

-> **start /HOST/console**

シリアル管理ポート出力は、サーバー SP のシリアルコンソールに自動的にルーティングされます。

関連情報

- <http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs> にある Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.2 ドキュメントライブラリ

▼ リモートコンソールを設定する

1. サーバー SP の IP アドレスを表示または設定します。

コマンド行インタフェース (CLI) または Web インタフェースを使用してリモートから Oracle ILOM にログインするには、サーバー SP の IP アドレスを知っている必要があります。サーバーの IP アドレスを確認する手順については、『[Oracle Server X5-2 設置ガイド](#)』の「[サービスプロセッサのネットワーク設定の表示または変更](#)」を参照してください。

2. Web ベースのクライアント接続を使用している場合は、これらの手順を実行します。それ以外の場合は次の手順に進みます。

a. Web ブラウザで、サーバー SP の IP アドレスを入力します。

b. Oracle ILOM Web インタフェースにログインします。

デフォルトの Oracle ILOM ユーザー名は root、デフォルトのパスワードは changeme です。

Oracle ILOM の「Summary Information」ページが表示されます。

c. Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションを起動して、ビデオ出力をサーバーから Web クライアントにリダイレクトします。

3. SSH クライアント接続を使用している場合は、次の手順を実行します。

a. シリアルコンソールから、サーバー SP への SSH 接続を確立します。ssh root@hostname と入力します。ここで、hostname には、サーバー SP の DNS 名または IP アドレスを指定できます。

b. Oracle ILOM にログインします。

デフォルトの Oracle ILOM は root、パスワードは changeme です。

c. シリアル出力をサーバーから SSH クライアントにリダイレクトします。次のように入力します。

```
-> start /HOST/console
```

関連情報

- <http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs> にある Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.2 ドキュメントライブラリ

ブートメディアオプションの選択

サーバーへのオペレーティングシステムのインストールを開始するには、ローカルまたはリモートのインストールメディアソースからブートします。このセクションでは、サポートされているメディアソースおよびソースごとの設定要件を示します。

- [14 ページの「ブートメディアオプションの要件」](#)
- [15 ページの「ローカルインストールのためにブートメディアを設定する」](#)
- [15 ページの「リモートインストールのためにブートメディアを設定する」](#)

ブートメディアオプションの要件

このセクションでは、ローカルおよびリモートメディアを使用するための要件について説明します。

- [14 ページの「ローカルブートメディアの要件」](#)
- [14 ページの「リモートブートメディアの要件」](#)

ローカルブートメディアの要件

ローカルブートメディアには、サーバー上の組み込み型ストレージデバイスまたはサーバーに接続された外付けのストレージデバイスが必要です。

リモートブートメディアの要件

リモートブートメディアを使用すると、ネットワーク経由でインストールをブートできます。インストールは、リダイレクトされたブートストレージデバイスか、PreBoot eXecution Environment (PXE) を使用してネットワーク経由で ISO イメージをエクスポートする別のネットワークシステムから開始できます。

サポートされている OS のリモートブートメディアソースには、次のものがあります。

- リモート DVD ドライブに挿入された DVD-ROM インストールメディア、およびリモートの USB リムーバブルフラッシュドライブのインストールメディア
- 仮想リダイレクション用に設定されたネットワーク上の場所で使用できる DVD-ROM ISO イメージ
- サーバーのサービスプロセッサ (SP) 上にマウントされた DVD-ROM インストールメディアイメージ

インストールイメージをサーバー SP にマウントする手順については、<http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs>にある『Oracle ILOM 構成および保守用管理者ガイド』を参照してください。または、Oracle ILOM の「Remote Control」->「Remote Device」Web インタフェースページの「More Details」リンクを参照してください。

- PXE boot – Oracle Solaris 11 は PXE ブートをサポートしています。いったん PXE ブートが開始されると、Oracle Solaris 11 のインストールは Automated Installation (AI) インストーラを使用して実行されます。サポートされている Oracle Solaris オペレーティングシステムの PXE ネットワークインストールを実行する手順については、[42 ページの「PXE ネットワークブートを使用して Oracle Solaris 11.2 \(SRU4 以降を適用\) をインストールする」](#)を参照してください。

▼ ローカルインストールのためにブートメディアを設定する

ローカルブートメディアを設定するには、次のいずれかのオプションを使用して、Oracle Solaris OS インストールメディアが格納されているストレージデバイスをサーバーに装着する必要があります。

1. サーバーにオプションの DVD ドライブが装備されている場合は、サーバー前面の DVD ドライブに Oracle Solaris OS インストール DVD を挿入します。それ以外の場合は、次の手順に進みます。
2. サーバーに DVD ドライブがない場合は、サーバー前面または背面の外部 USB ポートの 1 つに、Oracle Solaris OS インストールメディアが格納された外付け USB DVD ドライブまたは USB フラッシュドライブを装着します。

注記 - サーバーの外部 USB ポートの位置については、『[Oracle Server X5-2 設置ガイド](#)』の「サーバーの機能とコンポーネント」を参照してください。

▼ リモートインストールのためにブートメディアを設定する

Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションを使用してリモートの場所で提供されたメディアから OS をインストールするには、次の手順を実行します。

1. OS ブートメディアをマウントまたは認識させてアクセスできるようにします。例:
 - DVD-ROM の場合は、リモートシステム上の内蔵または外付けの DVD-ROM ドライブにメディアを挿入します。

- **DVD-ROM ISO イメージの場合は**、ISO イメージがネットワーク共有された場所ですぐに使用可能であること、またはサーバーのサービスプロセッサ (SP) にマウントされていることを確認します。

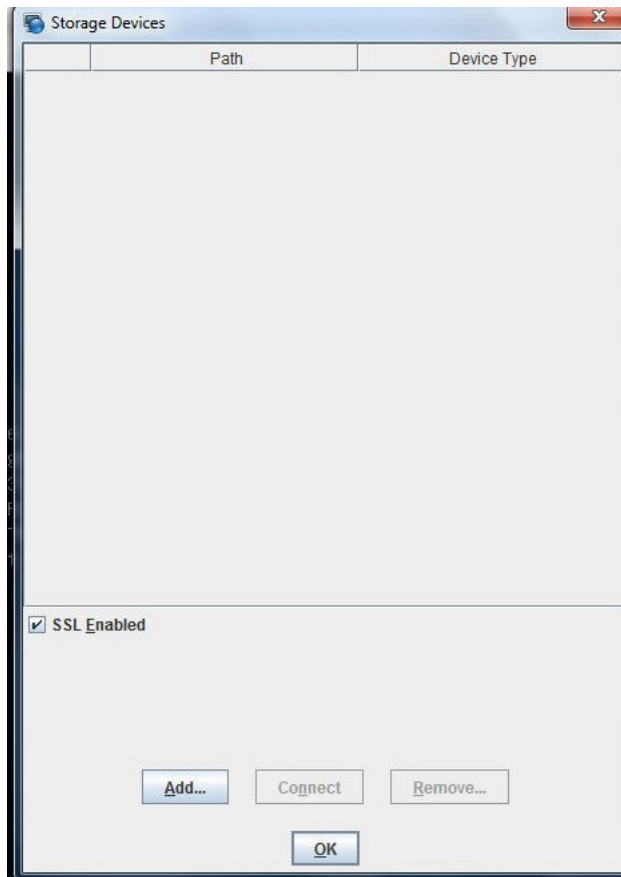
インストールイメージをサーバー SP にマウントする手順については、<http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs> にある『Oracle ILOM 構成および保守用管理者ガイド』を参照してください。または、Oracle ILOM の「Remote Control」->「Remote Device」Web インタフェースページの「More Details」リンクを参照してください。

2. サーバーの Oracle ILOM SP への Web ベースのクライアント接続を確立し、Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションを起動します。

詳細は、11 ページの「コンソール表示オプションの選択」に示す Web ベースのクライアント接続に関するセットアップ要件を参照してください。

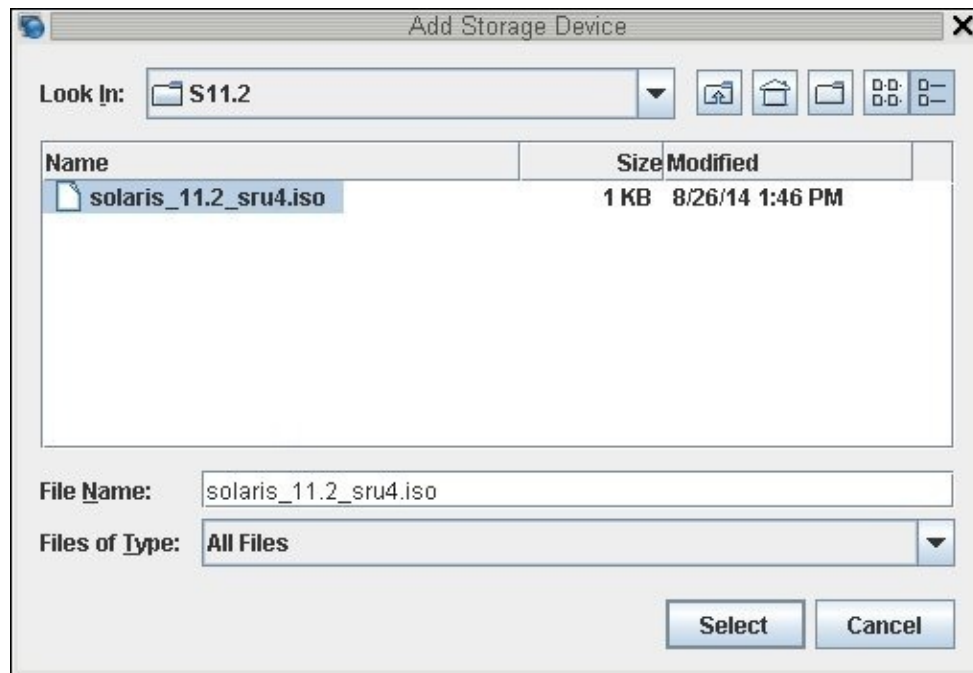
3. リモートコンソールで、次を実行します。
 - a. 「KVMS」をクリックして、「KVMS」ドロップダウンメニューを表示します。
 - b. 「Storage」をクリックします。

「Storage Devices」ダイアログが表示されます。



- c. 「Storage Devices」ダイアログで、「Add」をクリックします。

「Add Storage Device」ダイアログが表示されます。



- d. ISO イメージを参照して選択し、「Select」をクリックします。

「Storage Devices」画面が表示され、ISO イメージの一覧が表示されます。

- e. ISO イメージを選択して、「Connect」をクリックします。

ISO イメージはリモートコンソールにマウントされ、OS インストールを実行するために使用できます。

インストール先オプションの選択

このセクションでは、インストール先を設定する方法について説明します。

- [19 ページの「インストール先のオプション」](#)
- [19 ページの「ローカルストレージドライブ \(HDD または SSD\) をインストール先として設定する」](#)
- [19 ページの「インストール先としてファイバチャネル Storage Area Network デバイスを設定する」](#)

インストール先のオプション

(Oracle System Assistant 用に予約されている) 組み込み型の Oracle System Assistant USB フラッシュドライブおよび (サーバーのフロントパネルにある) オプションの NVMe ストレージドライブを除き、サーバーに取り付けたどのストレージドライブにもオペレーティングシステムをインストールできます。これらにはハードディスクドライブ (HDD) と半導体ドライブ (SSD) があります。

注記 - NVMe ドライブは、Oracle Solaris オペレーティングシステムが動作するサーバーでサポートされますが、NVMe ドライブはオペレーティングシステムのブートをサポートしないため、これらのドライブはインストール先として使用しないでください。

ファイバチャネル PCIe ホストバスアダプタ (HBA) を備えたサーバーでは、オペレーティングシステムを外付けのファイバチャネルストレージデバイスにインストールすることも選択できます。

▼ ローカルストレージドライブ (HDD または SSD) をインストール先として設定する

- ターゲットドライブ (HDD または SSD) が正しく取り付けられ、電源が入っていることを確認します。

ハードディスクドライブ (HDD) または半導体ドライブ (SSD) の取り付けおよび電源投入の詳細は、『[Oracle Server X5-2 サービスマニュアル](#)』の「[ストレージドライブ \(CRU\) の保守](#)」を参照してください。

▼ インストール先としてファイバチャネル Storage Area Network デバイスを設定する

1. PCIe サーバーにホストバスアダプタ (HBA) が正しく取り付けられていることを確認します。

PCIe HBA オプションの取り付けの詳細は、『[Oracle Server X5-2 サービスマニュアル](#)』の「[PCIe カード \(CRU\) の保守](#)」を参照してください。

2. **Storage Area Network (SAN)** をインストールおよび構成して、サーバー上のホストでストレージデバイスが認識されるようにします。

手順については、ファイバチャネル HBA 付属のドキュメントを参照してください。

Oracle Solaris OS インストールオプション

単一サーバーでの OS のインストールには、Oracle System Assistant をお勧めします。複数サーバーでの OS のインストールには、Oracle Enterprise Manager Ops Center をお勧めします。このドキュメントでは、単一サーバーでの OS のインストールを扱います。次の表に、2つのインストールオプションに関する情報を示します。

オプション	説明
複数のサーバー	Oracle Enterprise Manager Ops Center を使用すると、1つの OS を複数のサーバーにインストールできます。詳細は、 http://www.oracle.com/technetwork/oem/ops-center/index.html にアクセスしてください。
単一のサーバー	次のいずれかの方法を使用して、単一のサーバーに OS をインストールします。 <ul style="list-style-type: none"> ■ ローカル: サーバー上でローカルに OS のインストールを実行します。このオプションは、物理的にラックにサーバーを設置し終えたばかりのときにお勧めします。 ■ リモート: リモートの場所から OS のインストールを実行します。このオプションは、Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションを使用して、Oracle System Assistant にアクセスするか、OS の手動インストールを実行します。 <p>注記 - 単一のサーバーに Oracle Solaris をインストールする場合は、Oracle System Assistant を使用するようしてください。Oracle Solaris ディストリビューションには、必要なすべてのドライバとツールが含まれているため、Oracle System Assistant でドライバやツールをインストールする必要はありません。</p>

単一サーバーへの OS のインストール方法の詳細は、次を参照してください。

- [20 ページの「単一サーバーへのインストール方法」](#)
- [22 ページの「Oracle System Assistant の概要」](#)

単一サーバーへのインストール方法

Oracle Solaris インストールメディアの提供方法を選択します。次の情報を使用して、ローカルかリモートのどちらの OS のインストールがニーズにもっとも適しているかを判断します。

注記 - Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストール要件に関する最新情報については、<http://www.oracle.com/goto/X5-2/docs> にある『Oracle Server X5-2 プロダクトノート』を参照してください。

メディアの配布方法	その他の要件
ローカルでの補助付き OS インストール - Oracle System	モニター、USB キーボードとマウス、USB デバイス、および Oracle Solaris 配布メディア。詳細は、 21 ページの「Oracle Solaris の補助付きインストール」 を参照してください。

メディアの配布方法	その他の要件
Assistant を使用します。(推奨)	
リモートでの補助付き OS インストール – Oracle System Assistant を使用します。(推奨)	Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーション、リダイレクトされた CD/DVD ドライブまたは ISO イメージファイル、および Oracle Solaris 配布メディア。詳細は、 21 ページの「Oracle Solaris の補助付きインストール」 を参照してください。
CD/DVD ドライブを使用したローカル OS インストール – サーバーに接続された物理 CD/DVD ドライブを使用します。	モニター、USB キーボードとマウス、USB CD/DVD ドライブまたはフラッシュドライブ、および Oracle Solaris 配布メディア。ローカルインストールの場合は、サーバーに直接接続されたローカルの DVD ドライブまたは USB フラッシュドライブを使用してインストールメディアを配布します。詳細は、 21 ページの「Oracle Solaris の手動インストール」 を参照してください。
CD/DVD ドライブまたは CD/DVD ISO イメージを使用したリモートからの OS インストール – Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションを実行しているリモートシステム上でリダイレクトされた物理 CD/DVD ドライブを使用します。	ブラウザを実行しているリモートシステム、物理 CD/DVD ドライブまたはフラッシュドライブが接続されていること、Oracle Solaris 配布メディア、サーバーの管理ポートに対するネットワークアクセス。リモートインストールの場合は、リモートの DVD、USB フラッシュドライブ、または CD/DVD ISO イメージを使用してインストールメディアを配布します。詳細は、 21 ページの「Oracle Solaris の手動インストール」 を参照してください。

Oracle Solaris の補助付きインストール

補助付きインストールは、サポートされている OS をサーバーにインストールする場合の推奨される方法です。この方法では、Oracle System Assistant を使用します。Oracle Solaris インストールメディアをローカルまたはリモートの CD/DVD ドライブ、USB デバイス、または CD/DVD イメージに提供します。Oracle System Assistant はインストールプロセスをガイドします。Oracle System Assistant は、使用しているサーバーでサポートされている必要があり、そのサーバーにインストールされている必要があります。

注記 - Oracle Solaris では、サーバーに必要なすべてのドライバとツールが Oracle Solaris のインストールメディアに含まれているため、Oracle System Assistant はドライバやツールをインストールしません。

Oracle Solaris の手動インストール

この方法では、Oracle Solaris 配布メディアをローカルまたはリモートの CD/DVD ドライブ、USB デバイス、または CD/DVD イメージで提供します。Oracle Solaris をインストールするには、配布メディアのインストールウィザードを使用します。

Oracle System Assistant の概要

Oracle System Assistant は、Oracle x86 サーバー向けの単一サーバーシステム管理ツールです。Oracle System Assistant は、Oracle のシステム管理製品および選り抜きの関連ソフトウェアを統合して、サーバーを迅速かつ簡単に構成および保守できるようにするツール群を提供します。

Oracle System Assistant には、ローカルコンソール接続を使用してローカルからアクセスすることも、Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションを使用してリモートからアクセスすることもできます。

サーバーのインストールが終了した直後の場合、Oracle System Assistant を (物理的にサーバーにいる間に) ローカルで使用することで、サーバーを迅速かつ効率的に構成できます。サーバーが動作すると、すべての機能を維持しながら、Oracle System Assistant にリモートで便利にアクセスできます。

Oracle System Assistant のコンポーネントは次のとおりです。

- Oracle System Assistant アプリケーション
- Oracle Hardware Management Pack
- 構成と保守のプロビジョニングタスク (OS のインストールタスクを含む) へのユーザーインタフェースアクセス
- Oracle System Assistant のコマンド行環境
- オペレーティングシステムのドライバおよびツール (Oracle Solaris は除く)
- サーバー固有のファームウェア
- サーバー関連ドキュメント

Oracle System Assistant は、組み込みストレージデバイス (USB フラッシュドライブ) としてサーバー内部に存在し、出荷時にサーバー固有のバージョンのツールおよびドライバを使用して構成されており、オンライン更新を使用するなどして保守が行われます。

Oracle System Assistant の詳細については、次のトピックを参照してください。

- [22 ページの「「Get Updates」および「Install OS」タスク](#)
- [23 ページの「Oracle System Assistant の取得」](#)

Oracle System Assistant の詳細は、『Oracle X5 シリーズサーバー管理ガイド』(<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs>) を参照してください。

「Get Updates」 および 「Install OS」 タスク

Oracle System Assistant を使用して、OS ドライバとほかのファームウェアコンポーネント (BIOS、Oracle ILOM、HBA、および該当する場合はエキスパンダ) を更新する場

合は、OS をインストールする前に「Get Updates」タスクを実行するようにしてください。

Oracle System Assistant の OS のインストールタスクを実行すると、サポートされている OS をガイドに従ってインストールできます。OS インストールメディアを提供すると、Oracle System Assistant の手順に従ってインストールプロセスを実行できます。続いて、サーバーハードウェア構成に基づいて、適切なドライバを取得します。

Oracle System Assistant の詳細は、『Oracle X5 シリーズサーバー管理ガイド』(<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs>) を参照してください。

Oracle System Assistant の取得

Oracle System Assistant がサーバーでサポートされているため、Oracle System Assistant USB フラッシュドライブがすでにサーバーに取り付けられている可能性があります。インストールされている場合、Oracle System Assistant の「Get Updates」タスクを使用して、最新のソフトウェアリリースに更新できます。Oracle System Assistant がサーバーにインストールされているが、破壊または上書きされている場合は、My Oracle Support Web サイトから Oracle System Assistant Updater イメージをダウンロードしてください。ダウンロード手順については、『Oracle Server X5-2 設置ガイド』の「サーバーファームウェアおよびソフトウェアアップデートの入手」を参照してください。

サーバーに Oracle System Assistant が存在するかどうかを確認する方法、および更新や回復手順を実行する方法については、『Oracle X5 シリーズサーバー管理ガイド』(<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs>) を参照してください。

関連情報

- 『Oracle X5 シリーズサーバー管理ガイド』(<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs>)

Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストールの準備

このセクションでは、オペレーティングシステムをインストールできるようにサーバーを準備する方法について説明します。

説明	リンク
サーバーの UEFI の最適なデフォルト値の確認と設定。	26 ページの「UEFI の最適なデフォルト値を確認する」
ブートモードの設定。	28 ページの「ブートモードを設定する」
サーバーでの RAID の構成。	31 ページの「RAID の構成」

関連情報

- [38 ページの「単一システムへの Oracle Solaris 11.2 \(SRU4 以降を適用\) の手動インストール」](#)

ブート環境の準備

Oracle Solaris オペレーティングシステムをインストールする前に、実行する予定のインストールの種類をサポートするように、Unified Extensible Firmware Interface (UEFI) 設定が構成されていることを確認してください。

次のトピックでは、インストールをサポートするように UEFI を構成する方法について具体的に説明しています。

- [26 ページの「UEFI の最適なデフォルト値を確認する」](#)
- [28 ページの「ブートモードを設定する」](#)

ブートプロパティの変更の詳細は、『[Oracle X5 シリーズサーバー管理ガイド](#)』(<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs>) を参照してください。

▼ UEFI の最適なデフォルト値を確認する

注記 - 新しく設置されたサーバーにはじめてオペレーティングシステムをインストールする場合、UEFI はおそらく最適なデフォルト設定に構成されているため、この手順を実行する必要はありません。

BIOS 設定ユーティリティでは、必要に応じて UEFI 設定を表示および編集するだけでなく、最適なデフォルト値を設定することもできます。最適なデフォルト値を設定することで、サーバーが既知の適切な構成で効率的に動作するようになります。最適なデフォルト値は、『Oracle Server X5-2 サービスマニュアル』で確認できます。

F2 キーを使用して BIOS 設定ユーティリティで行なった変更はすべて、次回に変更するまで常時使用されます。

F2 キーを使用してシステムの BIOS 設定を表示または編集するだけでなく、BIOS の起動中に F8 キーを使用して、一時ブートデバイスを指定できます。F8 キーを使用して一時ブートデバイスを設定した場合、この変更は現在のシステムブートのみで有効です。一時ブートデバイスからブートしたあとは、F2 キーを使用して指定した常時ブートデバイスが有効になります。

始める前に 次の要件が満たされていることを確認します。

- サーバーにハードディスクドライブ (Hard Disk Drive、HDD) または半導体ドライブ (Solid State Drive、SSD) が搭載されている。
- HDD または SSD がサーバーに適切に設置されている。手順については、『Oracle Server X5-2 サービスマニュアル』の「ストレージドライブ (CRU) の保守」を参照してください。
- サーバーへのコンソール接続が確立されている。詳細は、11 ページの「コンソール表示オプションの選択」を参照してください。

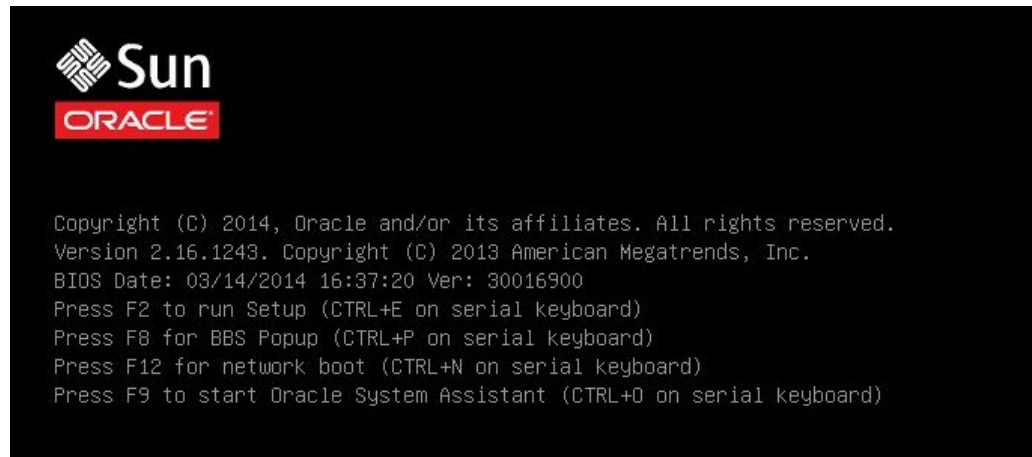
1. サーバーをリセットするか、サーバーの電源を投入します。

たとえば、次のいずれかを実行します。

- **ローカルサーバーから**、サーバーのフロントパネルの電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切断し、電源ボタンをもう一度押してサーバーの電源を入れます。
- **Oracle ILOM Web インタフェースから** 「Host Management」-> 「Power Control」をクリックし、「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択して、「Save」をクリックします。
- **Oracle ILOM CLI で** `reset /System` と入力します

サーバーがブートプロセスを開始し、BIOS 画面が表示されます。

注記 - BIOS 画面の表示にはしばらくかかることがあります。しばらくお待ちください。

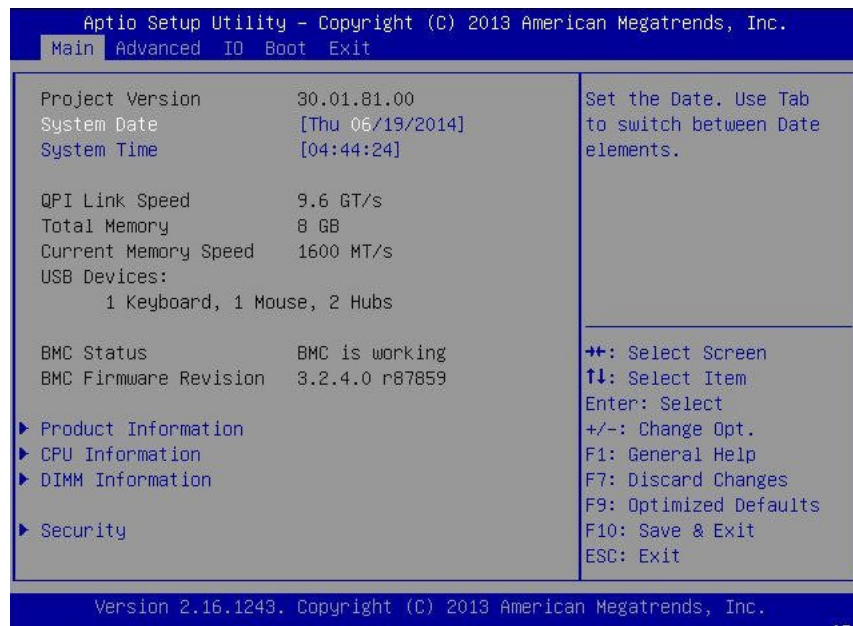


注記 - 次のイベントがすぐに発生するため、次の手順では集中する必要があります。画面に表示される時間が短いため、これらのメッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

2. **BIOS 画面でプロンプトが表示されたら、F2 キーを押して BIOS 設定ユーティリティにアクセスします。**

「[Setup Selected]」およびブートモード (Legacy または UEFI) が BIOS 画面の下部に表示されて、BIOS 設定ユーティリティが表示されます。

注記 - BIOS 設定ユーティリティー画面の表示にはしばらくかかることがあります。しばらくお待ちください。



3. **F9** キーを押すと、最適なデフォルト設定が自動的にロードされます。
メッセージが表示され、「OK」を選択してこの操作を続けるか、「CANCEL」を選択してこの操作を取り消すよう指示されます。
4. メッセージで「OK」を強調表示して、**Enter** キーを押します。
5. 変更内容を保存して BIOS 設定ユーティリティーを終了するには、**F10** キーを押します。
または、「Exit」メニューから「Save and Reset」を選択することもできます。

▼ ブートモードを設定する

サーバーの UEFI ファームウェアでは、Legacy BIOS と UEFI の両方のブートモードがサポートされます。デフォルトでは Legacy BIOS ブートモードが有効になっています。Oracle Solaris 11.2 では Legacy BIOS と UEFI の両方がサポートされるため、OS の

インストールを実行する前に、ブートモードを Legacy BIOS に設定するか UEFI に設定するかのオプションがあります。

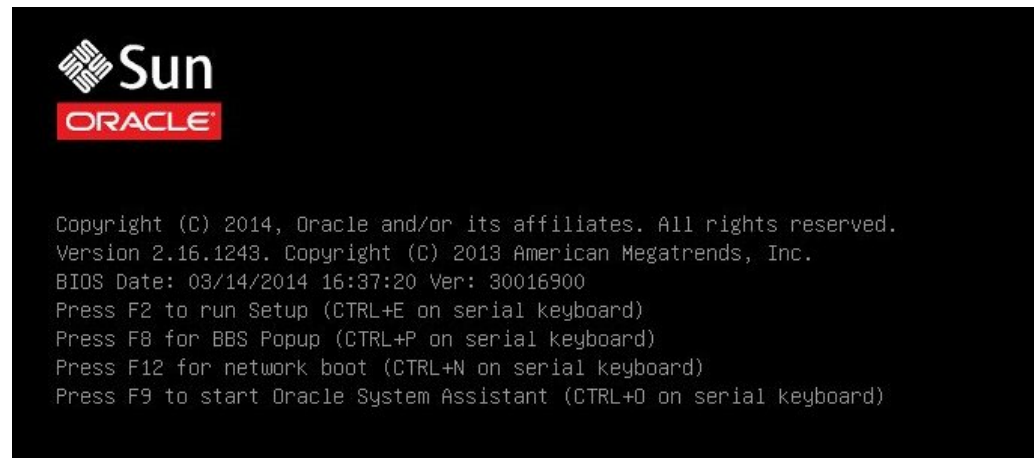
注記 - Oracle Solaris オペレーティングシステムをインストールしたあとで、Legacy BIOS ブートモードから UEFI ブートモード (またはその逆) に切り替えることにした場合、すべてのパーティションを削除して、オペレーティングシステムを再インストールする必要があります。

1. **サーバーをリセットするか、サーバーの電源を投入します。**

たとえば、次のいずれかを実行します。

- **ローカルサーバーから**、サーバーのフロントパネルの電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切断し、電源ボタンをもう一度押してサーバーの電源を入れます。
- **Oracle ILOM Web インタフェースから** 「Host Management」 -> 「Power Control」をクリックし、「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択して、「Save」をクリックします。
- **Oracle ILOM CLI で** `reset /System` と入力します

サーバーがブートプロセスを開始し、BIOS 画面が表示されます。



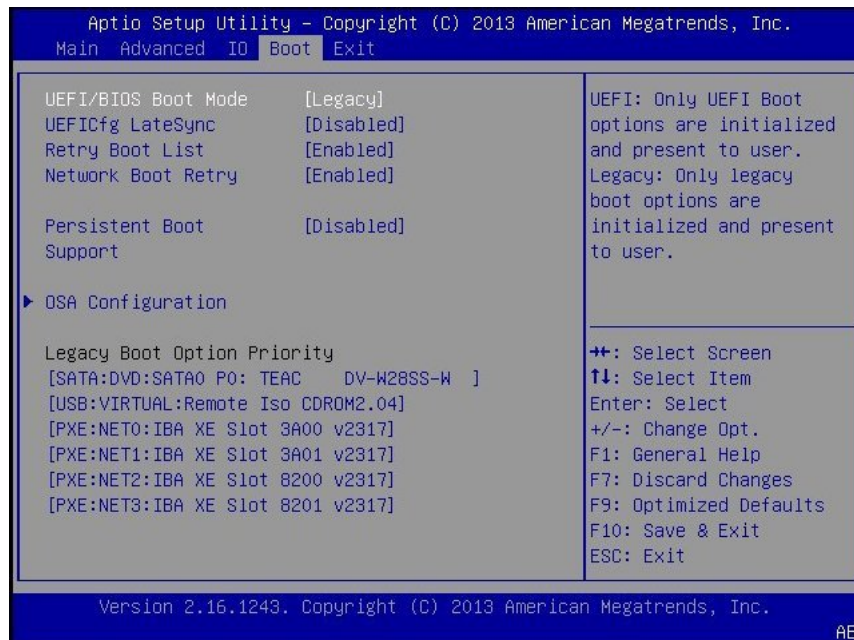
注記 - 次の手順がすぐに発生するため、F2 ファンクションキーを押せるようにしておきます。

2. **BIOS 画面でプロンプトが表示されたら、F2 キーを押して BIOS 設定ユーティリティにアクセスします。**

しばらくすると、BIOS 設定ユーティリティが表示されます。

3. BIOS 設定ユーティリティで、矢印キーを使用して「Boot」メニューに移動します。

「Boot」メニュー画面が表示されます。



注記 - ブート順序リストのオプションは、ストレージドライブ構成と、永続ブートサポート機能を有効にしたかどうかによって異なります。永続ブートサポートの詳細は、<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs>にある『Oracle X5 シリーズサーバー管理ガイド』を参照してください。

4. 下矢印キーを使用して「UEFI/BIOS Boot Mode」フィールドを選択して、Enter キーを押します。
5. 優先ブートモードを選択して、Enter キーを押します。
6. 変更を保存して BIOS を終了するには、F10 キーを押します。

注記 - 優先ブートモードとして Legacy BIOS または UEFI を選択してから、オペレーティングシステムのインストールを開始する必要があります。

RAID の構成

RAID (Redundant Array of Independent Disks) ボリュームに Oracle Solaris OS をインストールする場合は、Oracle Solaris OS をインストールする前に RAID ボリュームを構成しておく必要があります。RAID の構成手順については、『[Oracle Server X5-2 設置ガイド](#)』の「OS インストール用のサーバドライブの構成」を参照してください。

関連情報

- 『Oracle X5 シリーズサーバー管理ガイド』 (<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs>)

Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストール

このセクションでは、Oracle Solaris オペレーティングシステムを Oracle Server X5-2 にインストールする方法について説明します。

説明	リンク
プリインストール要件。	33 ページの「始める前に」
Oracle System Assistant を使用した、Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストール。	34 ページの「Oracle System Assistant を使用した、単一システムへの Oracle Solaris のインストール」
メディアを使用した、Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストール。	38 ページの「単一システムへの Oracle Solaris 11.2 (SRU4 以降を適用) の手動インストール」

関連情報

- [9 ページの「Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストールについて」](#)
- [26 ページの「UEFI の最適なデフォルト値を確認する」](#)
- [31 ページの「RAID の構成」](#)

始める前に

次の要件が満たされていることを確認します。

- サーバーのストレージドライブで RAID (Redundant Array of Independent Disks) を構成する場合は、オペレーティングシステムをインストールする前に行う必要があります。RAID の構成手順については、『[Oracle Server X5-2 設置ガイド](#)』の「[OS インストール用のサーバードライブの構成](#)」を参照してください。

注記 - Oracle Storage 12 Gb/s SAS PCIe RAID 内蔵 HBA を使用してストレージドライブを管理する場合は、オペレーティングシステムをインストールする前に RAID ボリュームを作成してそれをブート可能にする必要があります。そうしないと、HBA がサーバーのストレージドライブを特定できなくなります。

- UEFI ファームウェア設定が最適なデフォルト値に設定されていることを確認します。UEFI ファームウェア設定を確認して、必要に応じて設定する方法については、26 ページの「UEFI の最適なデフォルト値を確認する」を参照してください。
- UEFI ファームウェアを優先ブートモードである Legacy BIOS または UEFI に設定します。UEFI ブートモードの設定方法については、28 ページの「ブートモードを設定する」を参照してください。
- インストールの実行前に、コンソール表示オプションが選択および設定されています。このオプションの詳細と設定手順については、11 ページの「コンソール表示オプションの選択」を参照してください。
- インストールの実行前に、ブートメディアオプションが選択および設定されています。このオプションの詳細と設定手順については、14 ページの「ブートメディアオプションの選択」を参照してください。
- このインストール手順を開始する前に、インストール先オプションとして使用するストレージドライブが決定され、設定されています。このオプションの詳細と設定手順については、18 ページの「インストール先オプションの選択」を参照してください。
- Oracle Solaris オペレーティングシステムのドキュメントを用意し、このセクションで説明する手順と一緒に使用するようしてください。Oracle Solaris OS のドキュメントは次にあります。
Oracle Solaris 11.2 のドキュメント: http://docs.oracle.com/cd/E36784_01/index.html

Oracle System Assistant を使用した、単一システムへの Oracle Solaris のインストール

Oracle System Assistant の OS のインストールタスクは、Oracle Solaris を Oracle Server X5-2 にインストールするための推奨方法です。

注記 - Oracle Solaris ディストリビューションには、必要なすべてのドライバとツールが含まれているため、Oracle System Assistant でドライバやツールをインストールする必要はありません。

- 34 ページの「Oracle System Assistant を使用して Oracle Solaris をインストールする」

▼ Oracle System Assistant を使用して Oracle Solaris をインストールする

始める前に 次の要件が満たされていることを確認します。

- 25 ページの「Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストールの準備」の手順を実行します。
- ブートドライブ (Oracle Solaris のインストール先ストレージドライブ) を RAID 用に構成する場合は、Oracle Solaris をインストールする前にそれを実行する必要があります。サーバーで RAID を構成する方法については、『Oracle Server X5-2 設置ガイド』の「OS インストール用のサーバードライブの構成」を参照してください。

1. インストールメディアがブートできることを確認します。

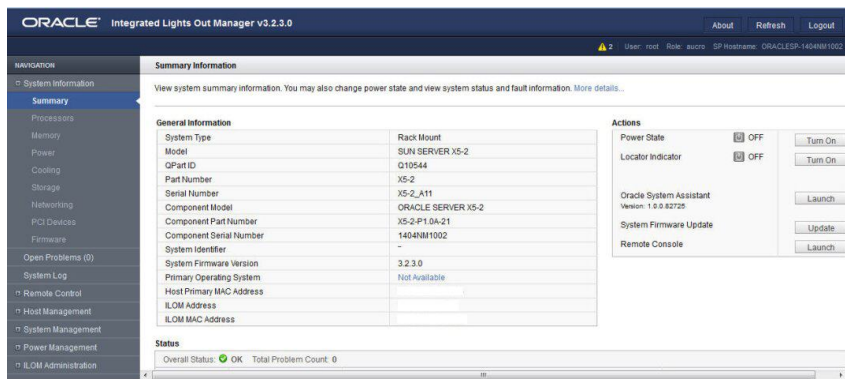
- **配布 CD/DVD の場合**、Oracle Solaris 11.2 (SRU4 以降が必須) のメディア (番号 1 のラベルが付いた CD または単一の DVD) をローカルまたは外付けの CD/DVD-ROM ドライブに挿入します。
- **ISO イメージの場合**、Oracle Solaris 11.2 (SRU4 以降が必須) の ISO イメージが使用可能で、Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションによって ISO イメージがマウントされていることを確認します。

インストールメディアの設定方法の詳細は、14 ページの「ブートメディアオプションの選択」を参照してください。

2. Oracle ILOM Web インタフェース (推奨) から直接 Oracle System Assistant を起動するには、次の手順を実行します。それ以外の場合は、ステップ 3 に進みます。

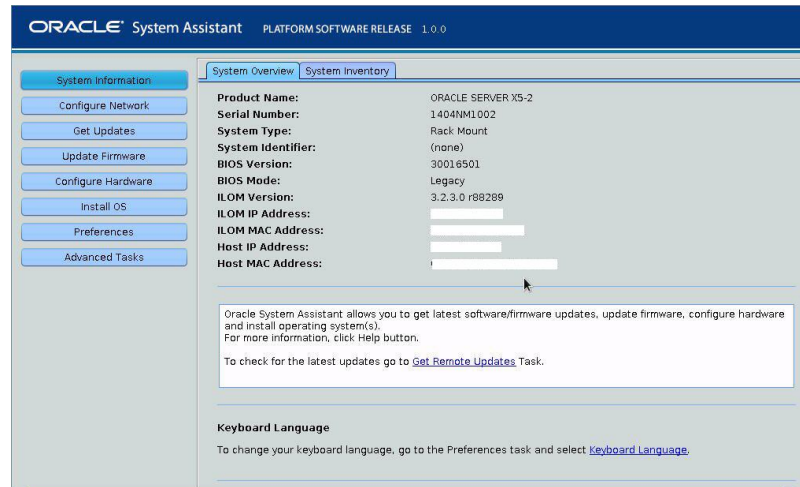
a. Oracle ILOM Web インタフェースにログインします。

Oracle ILOM の「Summary Information」ページが表示されます。



b. Oracle ILOM の「Summary Information」ページの「Actions」パネルで、Oracle System Assistant の「Launch」ボタンをクリックします。

「Oracle System Assistant System Overview」画面が表示されます。



c. **ステップ 4**に進みます。

3. リモートコンソールと BIOS を使って Oracle System Assistant を起動するには、次の手順を実行します。

a. Oracle ILOM の「Summary Information」ページで、リモートコンソールの「Launch」ボタンをクリックします。

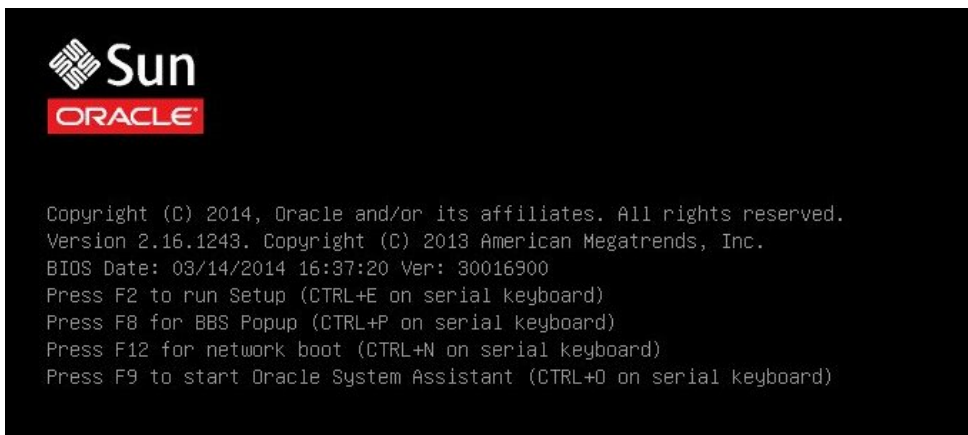
「Oracle ILOM Remote System Console Plus」ウィンドウが表示されます。

b. サーバーをリセットするか、サーバーの電源を投入します。

たとえば、次のいずれかを実行します。

- ローカルサーバーから、サーバーのフロントパネルの電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切断し、電源ボタンをもう一度押してサーバーの電源を入れます。
- Oracle ILOM Web インタフェースから「Host Management」->「Power Control」をクリックし、「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択して、「Save」をクリックします。
- Oracle ILOM CLI で `reset /System` と入力します

サーバーがブートプロセスを開始し、BIOS 画面が Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションに表示されます。



注記 - 次のイベントがすぐに発生するため、次の手順では集中する必要があります。画面に表示される時間が短いため、これらのメッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

c. **F9** キーを押して、**Oracle System Assistant** を開始します。

「Oracle System Assistant System Overview」画面が表示されます。

4. **Oracle System Assistant** を最新のソフトウェアリリースバージョンに更新するには、**Oracle System Assistant** の「**Get Updates**」ボタンをクリックします。

このアクションにより、OS のインストール開始前に、サーバーに最新バージョンの Oracle System Assistant が確実にインストールされます。

注記 - Oracle System Assistant を更新するには、サーバーの Web アクセスが必要です。

5. サーバーのファームウェアを更新するには、「**Update Firmware**」ボタンをクリックします。

このアクションにより、OS のインストール開始前に、サーバーのファームウェアおよび BIOS が確実に最新のものになります。

6. **Oracle Solaris OS** をインストールするには、「**Install OS**」ボタンをクリックします。

「Install Operating System」画面が表示されます。

7. 「Supported OS」 ドロップダウンリストから、「Oracle Solaris 11.2 Update 3」を選択します。
8. 画面の「Current BIOS mode」の部分で、OS のインストールに使用する BIOS モード (UEFI または Legacy BIOS) を選択します。
9. 画面の「Select Your Install Media Location」の部分で、インストールメディアの場所を選択します。
これは OS 配布メディアの場所です。オプションは「CD/DVD」および「Network」です。

注記 - Oracle System Assistant は、PXE (Preboot eXecution Environment) インストールをサポートしません。

10. 「Installation Details」をクリックします。
「Installation Details」ダイアログが表示されます。
11. 「Installation Details」ダイアログで、インストールしない項目を選択解除します。
12. 「Install Operating System」画面の最下部にある「Install OS」ボタンをクリックします。
13. プロンプトに従ってインストールを完了します。
サーバーがブートします。

単一システムへの Oracle Solaris 11.2 (SRU4 以降を適用) の手動インストール

このセクションには、Oracle Solaris 11.2 オペレーティングシステムをインストールするためのガイドラインが記載されています。

- [39 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用して Oracle Solaris 11.2 \(SRU4 以降を適用\) を手動でインストールする」](#)
- [42 ページの「PXE ネットワークブートを使用して Oracle Solaris 11.2 \(SRU4 以降を適用\) をインストールする」](#)
- [46 ページの「Oracle Solaris インストール後のタスク」](#)

関連情報

- [9 ページの「Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストールについて」](#)

▼ ローカルメディアまたはリモートメディアを使用して Oracle Solaris 11.2 (SRU4 以降を適用) を手動でインストールする

この手順では、ローカルメディアまたはリモートメディアから Oracle Solaris 11.2 オペレーティングシステム (OS) のインストールをブートする方法を説明します。次のいずれかのソースからインストールメディアをブートすることを前提にしています。

- Oracle Solaris 11.2 (SRU4 以降が必須) の DVD (内蔵または外付け DVD)
- Oracle Solaris 11.2 (SRU4 以降が必須) の ISO DVD イメージ (ネットワークリポジトリ)

注記 - インストールメディアを PXE 環境からブートする場合は、手順について [42 ページの「PXE ネットワークブートを使用して Oracle Solaris 11.2 \(SRU4 以降を適用\) をインストールする」](#) を参照してください。

1. インストールメディアがブート可能であることを確認します。

- **配布 DVD の場合**、Oracle Solaris 11.2 (SRU4 以降が必須) の DVD をローカルまたはリモートの DVD ドライブに挿入します。
- **ISO イメージの場合**、Oracle Solaris 11.2 (SRU4 以降が必須) の ISO イメージが使用可能で、KVMS メニューを使用して ISO イメージが Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションにマウントされていることを確認します。

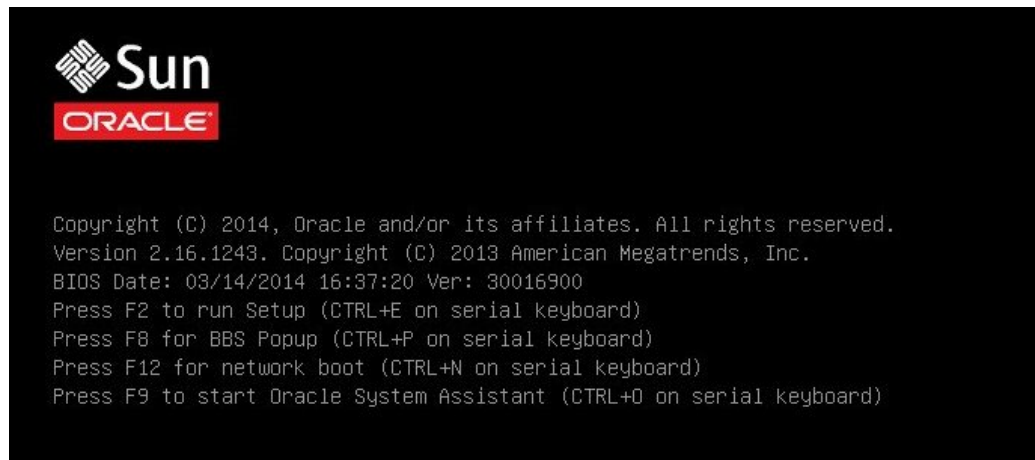
インストールメディアの設定方法の詳細は、[14 ページの「ブートメディアオプションの選択」](#) を参照してください。

2. サーバーをリセットするか、サーバーの電源を投入します。

たとえば、次のいずれかを実行します。

- **ローカルサーバーから**、サーバーのフロントパネルの電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切断し、電源ボタンをもう一度押してサーバーの電源を入れます。
- **Oracle ILOM Web インタフェースから** 「Host Management」 -> 「Power Control」をクリックし、「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択して、「Save」をクリックします。
- **Oracle ILOM CLI で** `reset /system` と入力します

サーバーがブートプロセスを開始し、BIOS 画面が表示されます。



注記 - 次のイベントがすぐに発生するため、次の手順では集中する必要があります。画面に表示される時間が短いため、これらのメッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

3. BIOS 画面で F8 キーを押して、Oracle Solaris OS インストール用の一時ブートデバイスを指定します。

「[Boot Pop Up Menu Selected]」が BIOS 画面の下部に表示されます。

次に、「Please Select Boot Device」メニューが表示されます。表示される画面は、UEFI/BIOS ブートモードを Legacy BIOS に構成したか UEFI BIOS に構成したかに応じて異なります。

- Legacy BIOS ブートモードの場合、次のような画面が表示されます。


```
Please select boot device:
SATA:DVD:SATA0 P0: TEAC DV-W28SS-W
USB:VIRTUAL:Remote Iso CDR0M2.04
PXE:NET0:IBA XE Slot 3A00 v2317
PXE:NET1:IBA XE Slot 3A01 v2317
PXE:NET2:IBA XE Slot 8200 v2317
PXE:NET3:IBA XE Slot 8201 v2317
Enter Setup

↑ and ↓ to move selection
ENTER to select boot device
ESC to boot using defaults
```

- UEFI ブートモードの場合、次のような画面が表示されます。

```
Please select boot device:
[UEFI] USB:VIRTUAL:Remote Iso CDR0M2.04
[UEFI] SATA:DVD:TEAC DV-W28SS-W
[UEFI] PXE:NET0:IP4 Intel(R) Ethernet Controller X540-AT2
[UEFI] PXE:NET1:IP4 Intel(R) Ethernet Controller X540-AT2
[UEFI] PXE:NET2:IP4 Intel(R) Ethernet Controller X540-AT2
[UEFI] PXE:NET3:IP4 Intel(R) Ethernet Controller X540-AT2
Enter Setup

↑ and ↓ to move selection
ENTER to select boot device
ESC to boot using defaults
```

注記 - 「Please Select Boot Device」メニューは、サーバーに取り付けられているディスクコントローラと、PCIe ネットワークカードなどのその他のハードウェアの種類によって異なります。

4. 「Please Select Boot Device」メニューで、使用対象として選択した Solaris OS メディアのインストール方法と UEFI/BIOS ブートモードに応じたメニュー項目を選択し、Enter キーを押します。

例:

- Legacy BIOS ブートモードで Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションの方法を使用することを選択した場合、Legacy BIOS ブート

モードバージョンの「Please Select Boot Device」メニュー画面で「SATA:DVD:SATA0 P0: TEAC DV-W28SS-W」を選択します。

- UEFI ブートモードでリモートコンソールの配布方法を使用することを選択した場合、UEFI ブートモードバージョンの「Please Select Boot Device」メニュー画面で「[UEFI]USB:VIRTUAL:Remote Iso CDR0M2.04」を選択します。

「GRUB」メニューが表示されます。

5. 画面に表示されるプロンプトに従って Oracle Solaris のインストールを完了します。Oracle Solaris 11.2 のインストール (SRU4 以降が必須) を完了する手順については、http://docs.oracle.com/cd/E36784_01/index.html の Oracle Solaris 11.2 のインストールドキュメントを参照してください。

関連情報

- [42 ページの「PXE ネットワークブートを使用して Oracle Solaris 11.2 \(SRU4 以降を適用\) をインストールする」](#)

▼ PXE ネットワークブートを使用して Oracle Solaris 11.2 (SRU4 以降を適用) をインストールする

次の手順では、PXE ネットワーク環境から Oracle Solaris11.2 (SRU4 以降が必須) オペレーティングシステムをインストールする方法について説明します。

始める前に Oracle Solaris 11.2 (SRU4 以降が必須) PXE ブートインストールを開始するには、次の要件を満たしている必要があります。

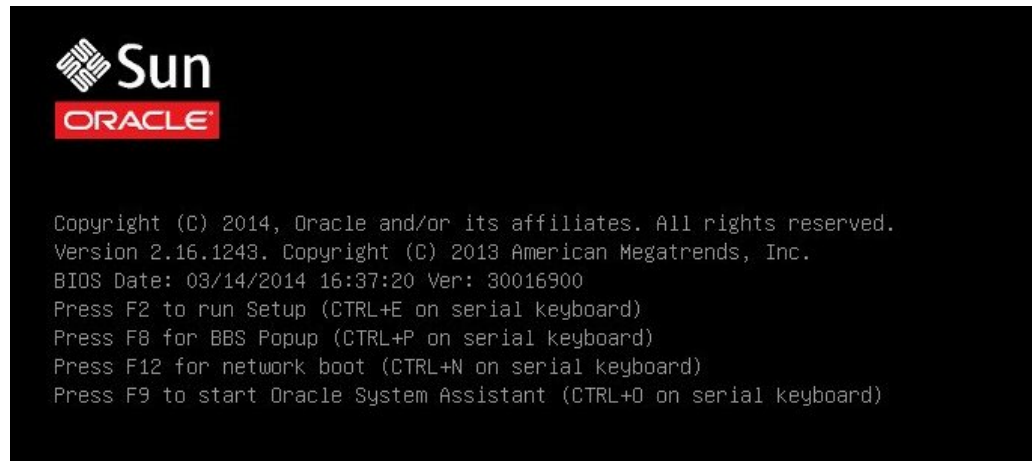
- PXE を使用して、ネットワーク経由でインストールメディアをブートするには、Automated Installation (AI) イメージインストールサーバーが設定されていて、ネットワーク経由でサーバーからアクセス可能であることを確認してください。
- AI サーバーでインストールクライアントの MAC アドレスが必要な場合は、Oracle ILOM SP に root としてログインして、次を入力することで、システムの MAC アドレスを取得できます。

```
-> show /SYS/MB/NET0 fru_macaddress
/SYS/MB/NET0
Properties:
fru_macaddress = 00:21:28:e7:77:24
```

1. サーバーをリセットするか、サーバーの電源を投入します。
たとえば、次のいずれかを実行します。

- **ローカルサーバーから**、サーバーのフロントパネルの電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切断し、電源ボタンをもう一度押してサーバーの電源を入れます。
- **Oracle ILOM Web インタフェースから** 「Host Management」->「Power Control」をクリックし、「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択して、「Save」をクリックします。
- **Oracle ILOM CLI で** `reset /System` と入力します

システムがブートプロセスを開始し、BIOS 画面が表示されます。



注記 - 次のイベントがすぐに発生するため、次の手順では集中する必要があります。画面に表示される時間が短いため、これらのメッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません

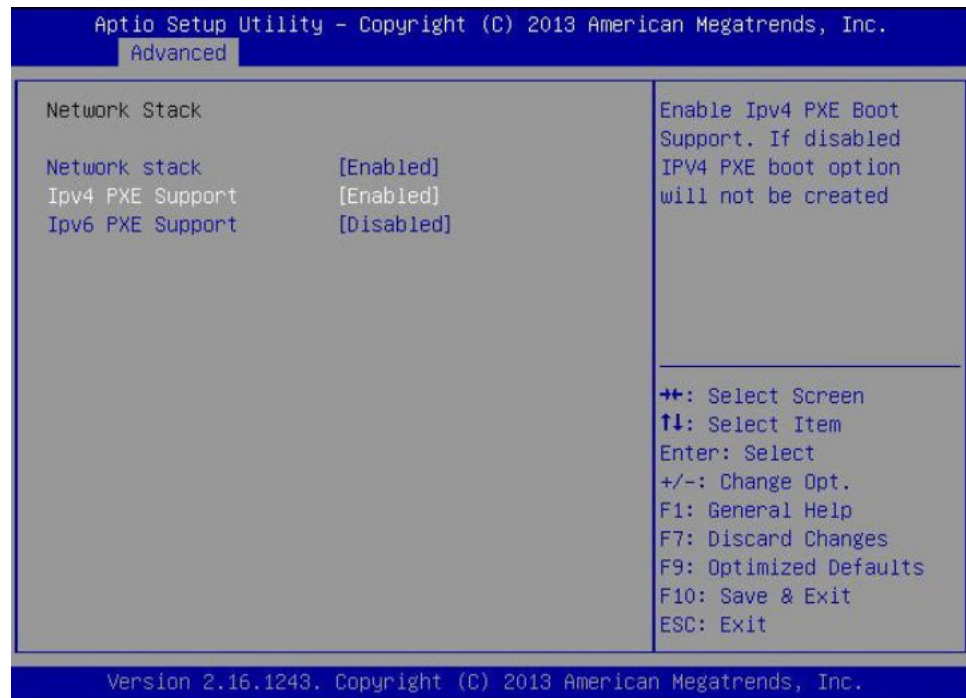
2. PXE ブートが有効になっていることを確認するために、次の手順を実行します。

注記 - PXE ブートはデフォルトで有効になっていますが、この手順では無効になっている場合に備えて、PXE ブートが有効になっていることを確認します。PXE ブートが有効になっていることを確認したら、以降の PXE ブートではこの手順を省略できます。

- a. **F2 キーを押して、BIOS 設定ユーティリティーにアクセスします。**
BIOS 設定ユーティリティーが表示されます。
- b. **上部のメニューバーで「Advanced」を選択します。**

BIOS 設定ユーティリティの「Advanced」画面が表示されます。

- c. 使用可能なオプションのリストから「**Network Stack**」を選択します。
BIOS 設定ユーティリティの「Network Stack」画面が表示されます。



- d. 必要に応じて、該当する PXE サポート設定 (IPv4 または IPv6 のいずれか) を「Enabled」に設定します。
- e. 変更内容を保存して BIOS 設定ユーティリティを終了するには、F10 キーを押します。

これにより、サーバーがリセットされます。リセット後、再度、BIOS 画面が表示されます。

3. BIOS 画面で、F8 キーを押して一時ブートデバイスを指定するか、F12 キーを押してネットワークブート (PXE) します。

「Please Select Boot Device」メニューが表示され、使用可能なブートデバイスが一覧表示されます。表示される画面は、BIOS を Legacy BIOS ブートモードに構成したか、UEFI ブートモードに構成したかに応じて異なります。

- Legacy BIOS ブートモードの場合、次のような画面が表示されます。

```
Please select boot device:
SATA:DVD:SATA0 P0: TEAC DV-W28SS-W
USB:VIRTUAL:Remote Iso CDR0M2.04
PXE:NET0:IBA XE Slot 3A00 v2317
PXE:NET1:IBA XE Slot 3A01 v2317
PXE:NET2:IBA XE Slot 8200 v2317
PXE:NET3:IBA XE Slot 8201 v2317
Enter Setup

↑ and ↓ to move selection
ENTER to select boot device
ESC to boot using defaults
```

- UEFI ブートモードの場合、次のような画面が表示されます。

```
Please select boot device:
[UEFI] USB:VIRTUAL:Remote Iso CDR0M2.04
[UEFI] SATA:DVD:TEAC DV-W28SS-W
[UEFI] PXE:NET0:IP4 Intel(R) Ethernet Controller X540-AT2
[UEFI] PXE:NET1:IP4 Intel(R) Ethernet Controller X540-AT2
[UEFI] PXE:NET2:IP4 Intel(R) Ethernet Controller X540-AT2
[UEFI] PXE:NET3:IP4 Intel(R) Ethernet Controller X540-AT2
Enter Setup

↑ and ↓ to move selection
ENTER to select boot device
ESC to boot using defaults
```

注記 - 「Please Select Boot Device」メニューのオプションは、サーバーに搭載されているディスクコントローラの種類によって異なる可能性があります。

4. 「Please Select Boot Device」メニューで、適切な PXE ブートポートを選択し、Enter キーを押します。
PXE ブートポートは、ネットワークインストールサーバーと通信するように構成された物理ネットワークポートです。
「GRUB」メニューが表示されます。
5. 画面に表示されるプロンプトに従って PXE インストールを完了します。

PXE インストールを完了する手順については、http://docs.oracle.com/cd/E26502_01/index.html にある『Oracle Solaris 11.2 カスタムインストールイメージの作成』を参照してください。

6. **46 ページの「Oracle Solaris インストール後のタスク」**のセクションに進んで、インストール後のタスクを実行します。

関連情報

- [46 ページの「Oracle Solaris インストール後のタスク」](#)

Oracle Solaris インストール後のタスク

Oracle Solaris オペレーティングシステムをインストールしてリブートしたあとで、更新が入手可能かどうかを判別する方法と更新のインストール方法に関する手順を Oracle Solaris のドキュメントで確認してください。次の Web サイトで Oracle Solaris 11.2 のドキュメントを参照してください。

http://docs.oracle.com/cd/E36784_01/index.html

索引

あ

- 一時ブートデバイス
 - Oracle Solaris OS, 40
- インストール
 - Oracle System Assistant の使用
 - Oracle Solaris, 34
 - タスクマップ, 9
- インストールオプション
 - 単一サーバー, 20
- インストール後のタスク
 - Oracle Solaris OS, 46
- インストール先
 - オプション, 19
 - ファイバチャネル Storage Area Network (SAN) デバイス, 19
 - ローカルストレージドライブ, 19
- インストール方法
 - Oracle System Assistant の使用, 21
 - 手動, 21
 - ブートメディアオプション, 14
- オペレーティングシステム
 - インストールオプション, 20
 - サポートされるバージョン, 10
- オペレーティングシステムのインストール
 - 概要, 9
 - サポートされているオペレーティングシステム, 10
- オペレーティングシステムのインストールの概要, 9

か

- コンソール
 - 表示オプションの選択, 11

さ

- サーバー
 - 電源投入
 - Oracle Solaris OS, 29
 - リセット
 - Oracle Solaris OS, 29
- サーバーの電源投入, 39
- サポートされているオペレーティングシステム, 10
- ソフトウェア
 - インストールオプション, 20
 - サポートされるバージョン, 10

た

- タスクマップ, 9

は

- ブートメディア
 - 要件
 - Oracle Solaris OS, 14
 - ブートメディアオプション
 - 選択
 - Oracle Solaris OS, 14
- ブートメディアのインストール, 14
- プロダクトノート
 - Web サイト, 11

ら

- リモートコンソール
 - 設定, 13
- リモートブートメディア
 - 設定, 15

- 要件, 14
- ローカルコンソール
設定, 12
- ローカルブートメディア
設定, 15
- 要件, 14

B

BIOS

- 最適なデフォルト設定の確認
 - Oracle Solaris OS, 26
- ブートモードの設定
 - Oracle Solaris OS, 29
- 編集および表示の手順, 26

H

- Hardware Management Pack, 22

I

- ISO イメージ
 - Oracle Solaris OS, 39

O

- Oracle Solaris OS
 - ISO イメージ, 39
 - 一時ブートデバイス, 40
 - インストール後のタスク, 46
- Oracle Solaris OS のインストール
 - PXE ベースのネットワークからリモートメディアを使用, 42
 - メディアを使用した単一システムへの, 38
 - ローカルメディアまたはリモートメディアの使用, 39, 39
- Oracle Solaris のドキュメントの Web サイト, 34
- Oracle System Assistant
 - アプリケーションの OS インストールタスク
 - Oracle Solaris OS, 23
 - 概要, 22
 - 組み込みストレージデバイス, 22
 - 入手, 23

P

- PXE インストール
 - Oracle Solaris OS, 42

R

- RAID
 - 構成, 31

U

- UEFI
 - 最適なデフォルト設定の確認, 26
 - 設定の編集および表示の手順, 26
 - ブートモードの設定
 - Solaris OS, 28